

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 高月紘

2 所在地

京都市伏見区深草池ノ内町13番地

3 電話番号

075-641-0911

4 ホームページアドレス

<https://keaa.or.jp/>

5 設立年月日

平成13年2月14日

6 基本財産

52,363千円（うち本市出えん額13,000千円、出えん率24.8%）

7 事業目的

持続可能な社会、すなわち低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与すること。

8 業務内容

- (1) 環境意識の普及、啓発に関する事業
- (2) 環境情報の発信事業
- (3) 環境保全に関する調査、研究に関する事業
- (4) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (5) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業
- (6) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業
- (7) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (8) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

環境政策局地球温暖化対策室（TEL075-222-4555）

10 役員名等

(1) 理事長

高月紘

(2) 専務理事

田中ひづる

(3) 理事

榎本育生、田浦健朗、橋本直子、花田眞理子、久山喜久雄、新川達郎、
山中かおり（環境政策局地球温暖化対策室担当部長）

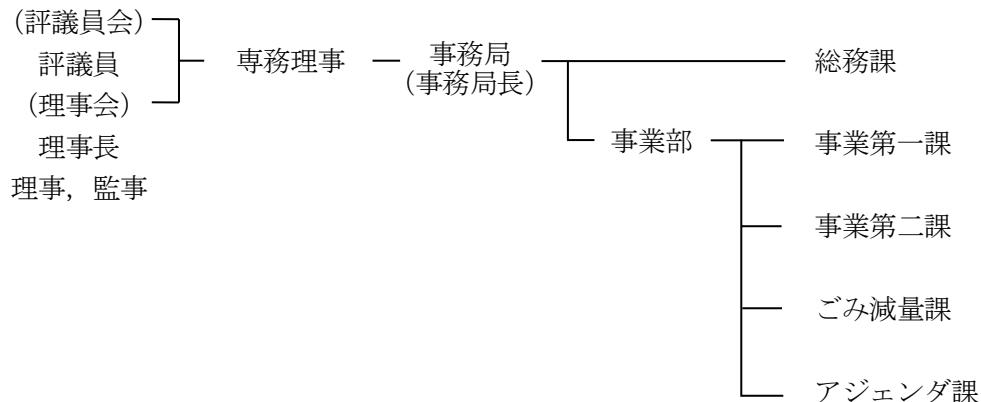
(4) 監事

野村克章

11 常勤職員数

29人（うち本市派遣職員0人）

12 組織機構



第2 経営状況

1 平成30年度決算

(1) 事業報告

ア 公益目的事業

(ア) 環境学習・環境保全活動支援事業

京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター。以下「センター」という。）指定管理業務について、4年間の指定管理期間の2年目として、次の事業を実施した。

a 環境保全に関する活動のための施設の提供

学校や自治会、PTAなど団体での来館者に対しては見学目的に合わせ、気づきから行動につながる環境学習プログラムを充実したうえ、提供した。

b 環境保全に関する資料及び装置の展示

センター常設展示コーナーの展示物について、企画、開発、保守、改善を行った。

また、期間限定の企画展示を年間で計10回開催を行った。

c 環境保全に関する情報の収集及び提供

かんきょう図書コーナーを通して、市民に環境について関心を高める機会を提供した（年間で貸出人数743名、貸出冊数が2,518冊）。

d 啓発冊子発行

市民の環境意識を高めるために、IPCC第49回総会京都市開催に向けて「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」をテーマにした啓発冊子を作成のうえ、配布した（4,000部）。

e 環境副読本発行

環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校や関連機関・協力団体等に配布した（小学4年生用、小学5年生用各14,500部、中学生用15,500部）。

f 広報誌の発行

季刊誌『えこせん』を隔月での年6回、毎号5,500部（昨年度より500部増）発行し、センター館内や市内各所に配架した。

g ホームページ等による情報発信

イベント案内チラシを隔月で年6回、約4,500部発行し、センター館内や市内各所に配架したほか、ホームページやメールマガジン、外部のイベント情報媒体等を活用して情報発信を行った。

h 各種講座や講演会の企画と実施

親子向けから環境に関心のある大人の方まで、幅広い層に楽しみながら暮らしの中で取り組むことができるエコ活動や持続可能な社会について学べるイベントを企画・実施した（実施件数：41件 参加者総数：3,931名）。

i 各種団体との連携事業

市民、NPO、事業者等との連携を図り、求めに応じて幅広い環境保全活動を対象とした総合的な支援を行った。

また、地域での環境活動を促進するための学習プログラムへのボランティア派遣や京都市内の中学校からの職場体験受入等を行った。

j 環境ボランティアの育成

来館者に対し館内の展示物、環境に配慮した設備を紹介する環境ボランティア（エコメイト）を募集するとともに、任期である3年間で「展示案内ができる/センターの環境学習プログラムができる/センターの概要や事業を説明できる」ようになるため、案内活動の能力向上に向けた研修や自主活動の充実を図った。

k 環境保全活動に関わる人材の育成

環境教育実践の担い手を育てるため従前より実施してきた環境教育リーダースタートアップ講座及び自然エネルギー普及・啓発プログラムを実施した。

1 海外との交流

かんきょう図書コーナーにおいて、日本語を母国語としない来館者にも地球温暖化や環境教育等の資料を提供することを目的に、外国語資料を設置した。

m 大学生の環境活動支援

京エコロジーセンターを、大学生の環境活動の拠点施設として機能させるための仕組みについて検討するため、「ESD ユース・ネットワーク作業部会」を設置し、全7回を実施した。

(イ) 国際事業

a JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上」業務

3箇国7名の廃棄物管理に関わる政府・地方行政職員を受け入れ、約2箇月にわたる研修を実施した。

b JICA 草の根事業「イスカンダル・マレーシア地域における低炭素社会づくりに向けた人づくり・地域づくり」プロジェクト

プロジェクト最終年となる平成30年度には、現地への専門家派遣を3回、現地関係者の訪日研修を1回実施した。また最終成果報告会を兼ねたシンポジウムを現地及び京都市内でそれぞれ開催した。

(ウ) 地域環境活動支援事業

a 京都市「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援業務

エコ学区として宣言した222学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会の実施等を通じて、地域ぐるみのエコ活動を促進した。学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを年間で計1,547回行った。

b 京都市「市民協働発電制度地域コミュニティ版再生可能エネルギー導入支援」業務

地域における再生可能エネルギーによる発電事業に関する調査や事業化を検討するコーディネーター及び専門家の派遣業務を行った（7地域に派遣）。

(エ) 講師派遣事業

a 講師派遣・講座の企画実施（セミナー・研修・イベント等）

セミナーやシンポジウムに職員を派遣し、環境学習施設運営や市民参画・ボランティアコーディネーションについての講演や事例発表を行った。

また、依頼元の要望にあわせた出前講座やワークショップの企画実施等を通して、他団体による環境活動を支援した。

(オ) 調査・研究・開発・発信事業

a これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

協会の組織基盤を固め、持続可能な運営体制を築くため、外部の専門家を交えた戦略会議を計11回実施し、協会の現状と課題の分析及び整理を行った。

イ 収益事業

(ア) 施設の使用許可及び公金徴収事務

施設の利用促進を図るとともに、施設の使用許可及び公金徴収事務を行った。

(2) 財務諸表

貸 借 対 照 表

平成31年3月31日現在

(単位：千円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|--------------------|----------|----------|----------|
| I. 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 68,373 | 69,730 | △1,357 |
| 未収金 | 25,760 | 24,284 | 1,476 |
| 前払金 | 167 | 89 | 78 |
| 立替金 | 314 | 235 | 79 |
| 流動資産合計 | [94,614] | [94,338] | [275] |
| 2. 固定資産 | | | |
| (基本財産) | (52,363) | (52,363) | (0) |
| 定期預金 | 2,363 | 2,363 | 0 |
| 普通預金 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| (その他固定資産) | (11,513) | (14,540) | (△3,027) |
| 什器備品 | 29,394 | 28,715 | 680 |
| ソフトウェア | 400 | 655 | △255 |
| 減価償却累計額 | △18,306 | △14,878 | △3,428 |
| 保証金 | 24 | 48 | △24 |
| 固定資産合計 | [63,876] | [66,903] | [△3,027] |
| 資産合計 | 158,490 | 161,242 | △2,752 |
| II. 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 25,729 | 28,634 | △2,905 |
| 前受金 | 0 | 5,061 | △5,061 |
| 預り金 | 360 | 541 | △180 |
| 賞与引当金 | 2,415 | 3,265 | △850 |
| 流動負債合計 | [28,505] | [37,501] | [△8,996] |
| 負債合計 | 28,505 | 37,501 | △8,996 |
| III. 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 寄附金 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 基本財産受取利息 | 2,363 | 2,363 | 0 |
| 指定正味財産合計 | [52,363] | [52,363] | [0] |
| (うち基本財産への充当額) | (52,363) | (52,363) | (0) |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| 一般正味財産合計 | [77,622] | [71,378] | [6,244] |
| 正味財産合計 | 129,985 | 123,741 | 6,244 |
| 負債及び正味財産合計 | 158,490 | 161,242 | △2,752 |

正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|----------------|----------|----------|---------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 0 | 0 | 0 |
| 事業収益 | 210, 902 | 207, 427 | 3, 475 |
| 受取補助金等 | 0 | 725 | △725 |
| 雑収益 | 34 | 27 | 7 |
| 経常収益計 | 210, 937 | 208, 179 | 2, 757 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 170, 588 | 175, 726 | △5, 138 |
| 管理費 | 34, 104 | 31, 548 | 2, 556 |
| 経常費用計 | 204, 692 | 207, 274 | △2, 582 |
| 当期経常増減額 | 6, 244 | 905 | 5, 339 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 6, 244 | 905 | 5, 339 |
| 一般正味財産期首残高 | 71, 378 | 70, 472 | 905 |
| 一般正味財産期末残高 | 77, 622 | 71, 378 | 6, 244 |
| II. 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 52, 363 | 52, 363 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 52, 363 | 52, 363 | 0 |
| III. 正味財産期末残高 | 129, 985 | 123, 741 | 6, 244 |

(参考1) 財務状況の推移

(単位:千円)

| | | H28 (決算) | H29 (決算) | H30 (決算) |
|---------------|-----------|----------|----------|----------|
| 正味財産増減 計算書 | 経常収益 | 208,496 | 208,179 | 210,937 |
| | 当期経常増減額 | △12,340 | 905 | 6,244 |
| | 当期正味財産増減額 | △12,340 | 905 | 6,244 |
| 貸借対照表 | 総資産 | 180,215 | 161,242 | 158,490 |
| | 総負債 | 57,380 | 37,501 | 28,505 |
| | 正味財産 | 122,835 | 123,741 | 129,985 |

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

| | | H28 (決算) | H29 (決算) | H30 (決算) |
|-----|------------------------------------|----------|----------|----------|
| 委託料 | 京都市環境保全活動センター (指定管理) | 152,576 | 149,995 | 149,995 |
| | エコ学区事業に係る学習会等支援事業 | 33,737 | 33,404 | 34,594 |
| | 電気自動車用充電設備管理業務 | 100 | | |
| | 市民協働発電制度地域コミュニティ版コーディネーター派遣業務 | 1,415 | 1,141 | 1,776 |
| | 「IPCC総会京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業」企画・運営業務 | | | 270 |

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

| | |
|-----|--|
| 財務面 | <ul style="list-style-type: none"> 公益法人として過度な剰余を発生させることなく安定的な運営を続けており評価できる。 |
| 事業面 | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、気候変動をはじめとした環境問題に関する市民の関心喚起や取組の実践に係る機運の醸成及び併設する青少年科学センターとの広報等の連携強化による京エコロジーセンターの入館者の確保に努めたことは評価できる。 |

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

| | |
|-----|---|
| 財務面 | <ul style="list-style-type: none"> 効率的な経営に努めており、2期連続で当期正味財産増減額の黒字を達成した。 以前から本市以外の事業を受託するなど本市に依存しない財務基盤の確立に取り組んでいる。今後も引き続き財源の多角化に取り組むことが重要である。 |
| 事業面 | <ul style="list-style-type: none"> 地域団体や学校等と連携した教育・啓発活動やJICAからの研修事業受託など、積極的な取組を行っている。 今後も引き続き、市民等への環境問題についての啓発に取り組んでいくことが重要である。 |